

笑顔であいさつ



「あいさつ」というコミュニケーションは、私たち人間社会にとつて欠くことのできないものです。あいさつの方法には手紙、はがき、メールなど書き言葉によるものと話し言葉によるものがあり、さらには、握手や抱擁といった方法によるものもあります。その中で一番有効な方法は話し言葉によるあいさつではないでしょうか。相手と直に接することで相手の意思や思い・感情を敏感に感じることが出来ます。あいさつという行為で仲間意識をつくりあげることが出来ます。



笠松町道徳教育連絡会議

地域社会が疎遠になりつつある中で今一度、あいさつについて学校と地域が考え、実践していくことが必要ではないでしょうか。学校では進んであいさつができる子になってほしいという願いを持ってあいさつ運動(あいさつレンジャー)に取り組んでいます。本校では、学校での取り組みや指導によってあいさつができるようになったと自己評価している子どもが増えており、成果として喜んでいますが、学校以外の地域生活においてもあいさつができているのだろうかと不安に思うのが実情です。小学生にとつてはあいさつはいつでも、だれでも、だれにでも簡単にできるといふものではなく、子ども達の発達段階によってあいさつの仕方は変わってきます。一般に低学年の子どもは、顔見知りの人に対しては大声で元気なあいさつをすることが出来ます。また、高学年の子どもは、おだやかな口調であいさつしたり、時には会釈という方法であいさつを交わすことも覚えていきます。ただ、年齢に関わらずあいさつする時の表情は笑

顔でなければならぬと思っ
ています。

低学年の子どもたちの「元気で明るいあいさつ」は、周囲にも元気が明るさを分け与えてくれるもので、地域のかたがたとつても嬉しいものであることは間違いありません。ただ、私たちはそれだけで満足してはいけな思っています。高学年に進むにしたがつて、どの子ども「気持ちのよいあいさつ」「心のこもったあいさつ」ができるようになることを願って指導をしているのです。

お互いがほっとできるあいさつ、人間関係を豊かにするあいさつができる子どもを育てるためには地域のかたがたの協力が必要です。以前、ある講演会の中で、「元気にあいさつする子を育てるだけでは子どもの心は育たない。あいさつすることでほっとできる自分、喜んでもらえることをした自分を体感できた時、子どもの心は育つ」という話を聞きました。子どもたちとより顔見知りになっていただき、笑顔とあいさつの言葉を地域のかたからもかけてくださることを願っています。どうぞよろしく願います。

下羽栗小学校

校長 安田 豊

洪水に備え水防演習

木曾川右岸地帯水防事務組合

木曾川右岸地帯水防事務組合(管理者 広江町長)主催の水防演習が五月十四日、笠松競馬場三角駐車場で行われました。

演習は、出水期を前に団員の士気の高揚と作業能力の向上を図り水防体制を強化することを目的に、笠松町をはじめ、岐阜市、各務原市、岐南町から十五水防団約三百九十人が参加。梅雨前線と台風の影響で木曾川上流に大雨が降り、犬山で警戒水位を突破したという想定で、団員たちが本番さながらに「猪の子工」や「木流し工」など十二工法を行いました。



「月の輪工」に取り組む団員たち

また、同日、長年水防団活動に貢献された次の皆さんへ表彰状の伝達と授与がありました。当町関係分 (敬称略)

- 岐阜県知事表彰(伝達)
 - 【紫功労賞】足立 薫、岩田 昇
 - 森 秀樹、安達益朗、金森俊彰
- 【紅功労賞】森 岸夫
管理者表彰
- 【功労章】田島道弘
- 【勤労章一号】宮崎和彦
- 森 立夫、岩田久武、野田泰司
- 【勤労章二号】林 勉、森美智也
- 後藤富彦、森五十六、森 智
- 加藤喜九雄、山本栄治

情報公開・個人情報保護制度実施状況

【情報公開制度】平成十七年度分の公開状況は、一件の請求もありませんでした。

【個人情報保護制度】平成十七年度における、個人情報保護制度の運用状況は、開示、訂正、削除の請求及び不服申し立ては一件もありませんでした。